

このDVDの立ち位置について

2017.2.9.

■100ベクレル/kg、1ミリシーベルト/年、100ミリシーベルト、などの"基準値"について

このDVDでは、放射線の線量などについて当局の推奨している基準値を一応紹介しています。それは、このDVDを福島の子たちにも見てほしいからです。できる限り、"推進派"の影響を受けている人たちにも見てほしいからです。なぜなら、当局の基準値を否定したら、"反対派の主張"として一蹴されてしまうことを私たちは心配しました。

というのは、いま、福島にいる人たちは、一応こうした"公式"の基準値をよすがに当局の推奨するとおりに、それを受け入れて暮らしています。基準値を受け入れな

い人たちは、福島から離れていることと思います。全国で"反風評被害キャンペーン"に取り組んでいる自治体もそうです。当局の基準値を否定したら、反対派の主張として見向きもされないからです。

もちろん、私たちはその値を"推奨"したりはしません。ですが、それを一応の"基準"にしない限り、「なんだ、反対派の言ってることか。」というので、その人たちは、このDVDを見てくれない。それが教員だったら、子どもたちにも見せてくれない、という心配があるからです。

■人工放射線の被ばくはゼロがいいんじゃないですか？

「人工放射線被ばくは"ゼロ"がいい。」という主張も、あえてDVDには盛り込みませんでした。私たちは、もちろん「過剰被ばくはゼロがいい」と思っています。

ですが、それを言ってしまったら、福島にいる人たちは現に被ばくしてしまっているわけですから、このDVDを見てくれなくなることを心配しました。

しかしそれでも、「避けることができない自然放射線以外の被ばくは少ない方がよいのです。セシウム137などの人工放射性物質はできるだけ取り込まない方がよいのです。(16分めごろ)」というナレーションは入れています。

■"ALARAの原則"は、経済的な理由で被ばくを許容させるのでは？

ALARAの原則についてもしかりです。ICRPによって経済的な合理性が盛り込まれている主張であることは、私たちとしては百も承知です。ですが、この原則で「できる限り少ない方がよい。」というところに注目してほしいので、あえて、このDVDには盛り込みました。被ばくはできる限り少ない方がよいことを主張している人に対して、ALARA原則を引き合いにして「あまりに莫大な費用がかかるような被ばく対策は経済的に

見合わない。」と反論する"推進派"に対しては、人の命とお金と比較することの愚かさを教えてあげる必要があります。

また、「LNT説（被ばく影響直線説）」にあえて触れないのも、"LNT説は反対派の主張"とされていますから、LNT説を盛り込んだときにこのDVDが"反対派の作品"として一蹴されてしまうことを心配したからです。

■私たちの意図

私たちのホントの主張ばかりをそのままDVDに盛り込んでしまったら、学習教材として福島の人たちや、推進派の影響を受けている人たちに見てもらえない、というおそれがあるからです。ともかくも、放射線の問題について理解してもらいたい、できる限り福島でも全国でもこの教材を使ってほしいと思うから、このような内容になりました。

でも、だからといって、当局の数字だけではないようにしたつもりです。被ばくは「できる限り少ない方がよい」というメッセージを書き込んであります。

食品の基準にしても、100ベクレル/kgという日本の基準だけではなく、ウクライナの基準もそれとなく？示してあります。基準は一つだけではない、というメッセージです。(17分めごろ)

以上、現在のこの国の状況の中で、安心・安全だけを振りまこうとしている文科省・経産省・電力会社などの存在を無視することなく、それでもきちんと「放射線のホントのこと」を伝えるために、あえてこのようなDVDにしました。ご意見・ご感想をお待ちしております。

ご意見ご感想はメール等でお寄せください。

mail to : neg@jca.apc.org

原子力教育を考える会：担当_根岸